

第 2 回地域WG  
環境とジェンダー／女性  
2020年3月6日

萩原なつ子

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科・教授  
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事

# 環境とジェンダー／女性 SDGsまでの国際的経緯

1892:「エコロジー」命名式 エレン・リチャーズ・スワロー

1962:『沈黙の春』(サイレント・スプリング)レイチェル・カーソン

1972:国連人間環境会議:人間環境宣言の採択 国連環境計画 (UNEP) 設立

1987:ブルントラント委員会「Our Common Future」発表「持続可能な開発」

**1991年 健康な地球のための世界女性会議 マイアミ会議**

## 女性のアクションアジェンダ21

1992:環境と開発のための国連会議(地球サミット):リオ宣言・アジェンダ21・  
森林原則声明の採択、気候変動条約・生物多様性条約の署名開始

1993:持続可能な開発委員会(CSD)設置

1997:京都議定書の採択(2005年発効)COP3

2000:国連ミレニアム・サミット:国連ミレニアム宣言の採択 MDGs

2001:ミレニアム開発目標の策定

2002:ヨハネスブルグ・サミット:ヨハネスブルグ宣言・持続可能な開発に  
関する世界首脳会議実施計画(JPOI)の採択

2010:愛知ターゲット・名古屋議定書の採択(未発効)

2012:国連持続可能な開発会議(リオ+20):「The Future We Want」の採択

2015:持続可能な開発目標(SDGs)

# エコロジーを創始した女性

エレン・リチャーズ・スワロー(1842-1911)

自然環境と共生しうる生活・経済社会の形成をめ  
ざすための学際的科学

1892年11月30日

「Ecology」の命名式 (ボストン)

人々が環境と調和して生きるための知識を身につ  
けるための科学 → 1898年Home Economicshe

人間が全地球の支配者であるという考え方に私たちはすっかり  
なじんでしまっているようです。文明が高度になればなるほど、  
良識は衰退し日常生活に応用される科学も減少していくように見  
えます。これからはエコロジーを私たちの日常科学にしましょう。  
それをすべての応用科学のうち、健康で幸福な生活がその上に打  
ち立てられるべき諸原理を教える最も価値ある科学にしようでは  
ありませんか。

# 世界を変えた女性

知る権利、守られる権利は基本的人権

- ・ レイチェル・カーソン『沈黙の春』（1962年）
- ・ 「・・・自然は沈黙した。薄気味悪い。鳥たちは、どこへ行ってしまったのか。みんな不思議に思い、不吉な予感におびえた。裏庭の餌箱は空っぽだった。ああ、鳥がいたと思っても、死にかけていた。ぶるぶるからだをふるわせ、飛ぶこともできなかった。春がきたが、沈黙の春だった！」

レイチェル・ルイズ・カーソンは、アメリカ合衆国のペンシルベニア州に生まれ、1960年代に環境問題を告発した生物学者。アメリカ内務省魚類野生生物局の水産生物学者として自然科学を研究した。

# 1970年代 豊かな生活から正しい生活へ

- ・環境破壊型ライフスタイル

大量生産・大量消費・大量廃棄

- ・エコロジカル・ライフスタイル

- ・1978年、1979年 国連大学主催

「生活様式の転換に関する国際会議」

支配的生活様式→環境消費型、資源浪費型

選択すべき生活様式☞簡素な生活志向

# 「女性と環境ネットワーク」 (英国) 1988年設立

わたしたちは小さな政策決定が世界を変えるはずだと考え、消費に焦点を当てた活動を進めることにした。

消費者がどのような価値判断で物を選ぶか、環境調和的、社会調和的な商品の選択をすることにより、自分の生き方を変え、企業の在り方を変え、政策を変える力

 倫理的消費者

# 健康な地球のための世界女性会議 通称マイアミ会議（1991）



## 女性のアクション・アジェンダ 21

地球上の民族間の平等、私たちすべてを支え育む生命維持システムと人間の間の調和を求めていくにあたって、その中心を担い、力を発揮するのは、女性である。その女性の権利回復に尽くすことを誓うべく私たちはここに集まった。女性は、変革を求める強力な社会的勢力である。・ ・ ・ 女性は環境運動を結びあわせ質を変え、主導している。しかるに、政策当局は、地球の命運を決する決定を下すにあたっての女性の役割と要求の重要性を黙殺し続けている。P 47

# リオ行動計画アジェンダ 2 1

## 2 4 章

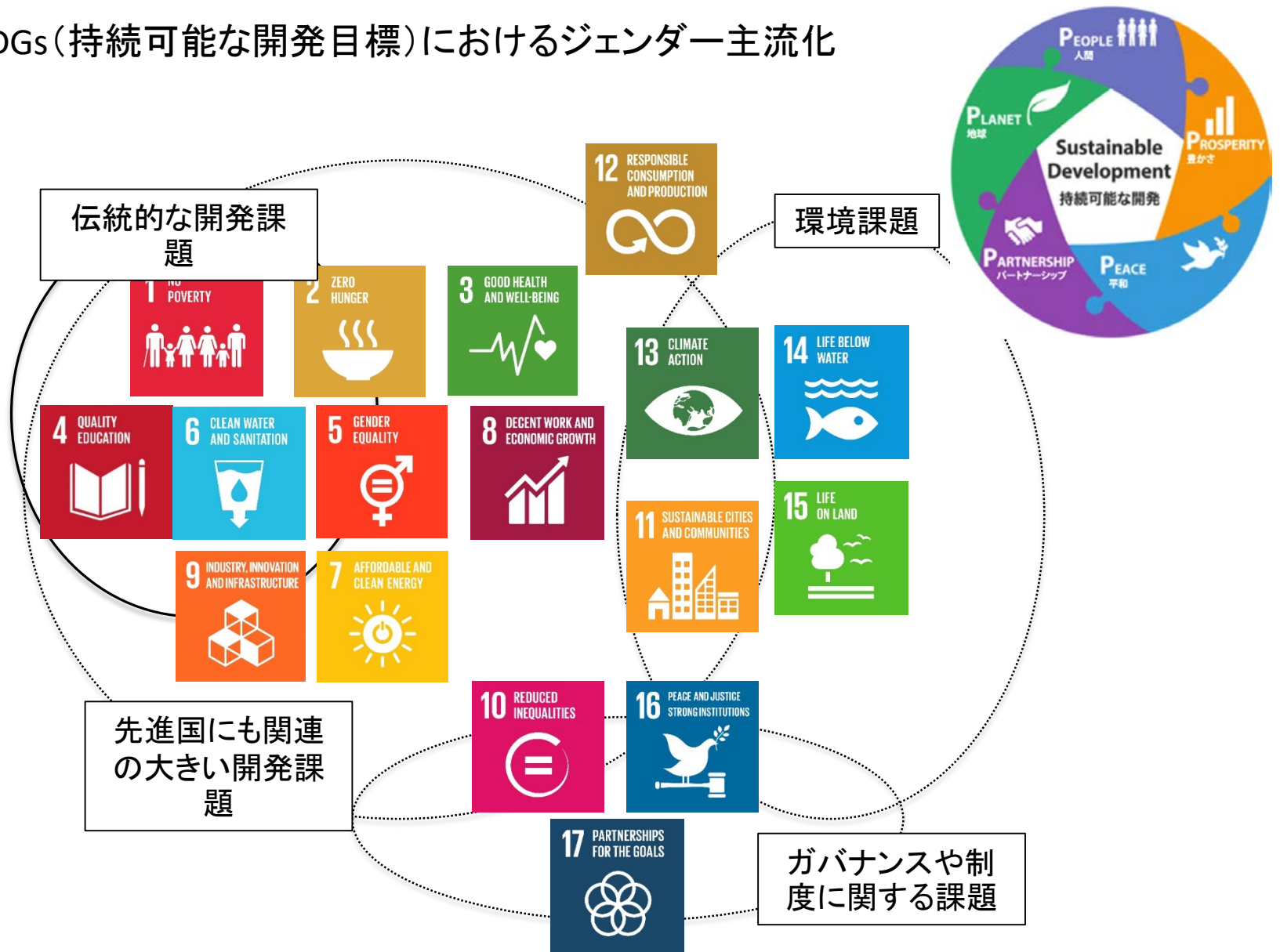
- ・ 第 2 4 章「持続可能かつ公平な開発に向けた女性のための地球規模の行動」
- ・ 地球環境保全や持続可能で公平な開発,環境政策立案における女性の役割を認め, そのためには女性の地位向上が前提であることが明記.
- ・ 環境と持続可能な開発の議論における女性の視点と女性の声は, グローバルで多様な危機や問題の解決の方向性を探るうえで, 必要不可欠であることが認知され, 女性の主流化が各国政府の取り組むべき重要課題となった.

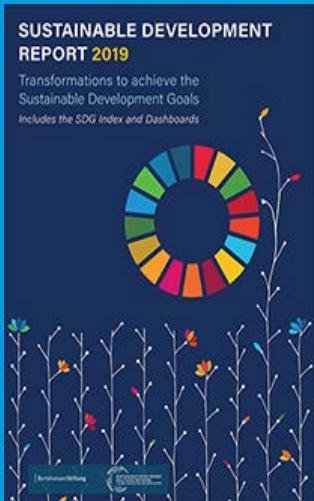


# リオ＋20（2012年6月）

- ・ 女性たちの「私たちの望む未来」とは、
- ・ 人権・平和を中心にし、人と地球を経済的利益に優先させる経済的枠組みに基づく持続可能な社会づくり
- ・ 「20年過ぎた今日、持続可能な開発における男女平等な参画の実現には程遠い現状である。いまだ、なぜ持続可能な開発についての会議の議題に女性のエンパワメントやジェンダー平等が入っているのか、との疑問が呈されることさえある。この20年間、地球温暖化や生物多様性に対する理解が大きく進んだことに比して、ジェンダー平等は持続可能な社会の基本であるとの理解は十分に進んだとは言えない」（by 織田由紀子）

# SDGs(持続可能な開発目標)におけるジェンダー主流化





# 世界のSDGs達成度ランキング

日本は162カ国中15位。

日本は、17の目標のうち、達成されていると評価されたのは、「目標4:質の高い教育をみんなに」のひとつのみ。

日本にとって最大の課題と指摘されている目標  
目標5「ジェンダー平等を実現しよう」  
目標12「つくる責任 つかう責任」  
目標13「気候変動に具体的な対策を」  
目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」